

2025年1月19日(日)大ホール
チケット情報は裏面



大阪フィルハーモニー交響楽団 八尾演奏会

八尾で聴く至極のオール・ドヴォルザーク
〜ノスタルジア〜

序曲「謝肉祭」作品92
チェロ協奏曲 口短調 作品104
交響曲第9番 ホ短調 作品95
「新世界より」

大阪フィルハーモニー交響楽団八尾演奏会

八尾で聴く至極のオール・ドヴォルザーク
〜ノスタルジア〜

序曲「謝肉祭」作品92
チェロ協奏曲 口短調 作品104
交響曲第9番 ホ短調 作品95「新世界より」

“ドヴォルザークの3曲を聴き比べるすごい機会!!” 大阪フィル八尾演奏会の聴きどころ

宮田さんがソリストとして弾かれるチェロ協奏曲の魅力を教えてください。

「ドボコン」の愛称で親しまれている曲で、僕も何度も弾いてきた曲です。でも毎回感じる思い出が違ってきます。最初は霧がかかったような暗さがありますが、チェロが入った瞬間に明るくなるのが印象的です。そして第3楽章の最後で終わる時も毎回違う感じ方をするのが一期一会だし、僕たちは音楽で感情を伝えないと、思いながらも、思いが強くなって涙が出てしまう。そんな曲です。



宮田さんの演奏にドヴォルザークの子孫の方も大変感動されたとお聞きしました。

チェコで演奏した際にお孫さんが聴きにきてくれて、「今まで聴いた中で一番ゆさぶられて、涙が出ました。」とおっしゃっていただきました。僕にとってもとても大事な言葉ですし、(お孫さんに会えたことで)ドヴォルザークにも少し会えた気がしました。

大阪フィルハーモニー交響楽団
八尾演奏会 ソリスト

宮田大さんに聞く、 大阪フィル八尾演奏会の ココに注目!

「プレミアムトークライブ in プリズムホール」
トーク&演奏でつづる八尾演奏会の魅力!レポート

1月に開催する大阪フィル八尾演奏会に先駆けて、ソリストとして出演される宮田大さんをお迎えしたトークライブを開催いたしました。八尾演奏会の魅力や意気込み、宮田さん自身の魅力も含めてたっぷりお聞きしましたので、ご紹介いたします!

宮田大 MIYATA Dai
2009年ロストロポーヴィチ国際チェロコンクールにおいて、日本人として初めて優勝。これまでに参加した全てのコンクールで優勝を果たしている。



今回共演する円光寺雅彦さんや大阪フィルの印象は?

円光寺マエストロとは2010年の共演以来なので、とてもワクワクしています!大阪フィルさんとは6回目の共演で、いろんな曲をやらせてもらいました。関西のオーケストラはリハ100%、本番150%ぐらいのパワーがあるなと感じます。(笑)

八尾演奏会への意気込みをお願いします!

たっぷりドヴォルザークの世界に浸かれるプログラムとなっています。僕は日本とドヴォルザークの作品には親密さがあると思っています。「土臭い」とよく表現します。日本人が持つ農耕民族的な心が刺激され、哀愁のあるメロディーと分かりやすいリズムが魅力です。その魅力を持つ3曲を聴き比べられるすごい機会です!また、大ホールは初めてののでどのように響くのかとても楽しみです!

宮田さんはマネージャーさんから見てどうい方ですか?

(石塚 M)五感の話が多いですね。特に匂いについてが多いです。(宮田)自分にとって匂いはすごく大事な要素で、曲に関しても作曲家が当時何を食べながら書いたのかによってイメージが変わると思うんです。また五感に刺激を与えることは自分のボキャブラリーになっていると感じます。



当日はマネージャーの石塚さんにもご登場いただきました!▲

他にもこんなお話もありました...!

プリズムホールは2回目のご出演ですが、印象はどうか?

響きがすごく良かったのと、お客さんとの距離の近さが素敵でした。(2019年の公演は)世界初演の曲が多かったので、挑戦的なプログラムをさせてくれたスタッフの皆さんに感謝です!



前回出演された際のチラシ▶

親子のはじめての演劇体験 プリズム・チャームプロダクション・シリーズ

2025年2月22日(土)・23日(日・祝)小ホール
チケット情報は裏面

ばーちやる

~時を超える箱舟~

原作:次良丸忍「ばーちやる」(金の星社刊) 脚本:道場禎一



相羽充希役 石野りく (劇団五期会)

直子(充希の母)役 日景温子 (文学座)

直子(充希の母)役 日景温子 (文学座)

直子(充希の母)役 日景温子 (文学座)

直子(充希の母)役 日景温子 (文学座)

直子(充希の母)役 日景温子 (文学座)

直子(充希の母)役 日景温子 (文学座)

直子(充希の母)役 日景温子 (文学座)

直子(充希の母)役 日景温子 (文学座)

直子(充希の母)役 日景温子 (文学座)

直子(充希の母)役 日景温子 (文学座)

直子(充希の母)役 日景温子 (文学座)

直子(充希の母)役 日景温子 (文学座)

直子(充希の母)役 日景温子 (文学座)

おはなし

小学5年生の相羽充希は、母・直子にたのまれてアルバイトをしている。仕事は、直子が研究のために会社から持って帰ってきたAI<シップという機械>に、亡くなったおばあちゃん、香坂優美恵の写真や日記を入力すること。いろいろ入力すると、<シップ>からおばあちゃんそっくりの「ばーちやる」が出てきた!充希たちとばーちやるは30日間限定で一緒に暮らしはじめる。ばーちやるは話もするし、テレビもみるし、時々なぐさめたりもしてくれる。まるでリアルな優美恵さん。でもいろいろ経験するうちに、ちょっとちがう性格の人になってきて...

天国に行ったおばあちゃんの“心”はよみがえるのか?

演出・西川信廣(文学座)さんメッセージ

『ばーちやる』は今話題のVR(Virtual Reality)仮想現実を題材にした物語です。亡くなったおばあちゃんのデータを入れたら、おばあちゃんが見れるという話は、少し前ならマンガのような話でしたが、今や現実にも起こり得る話になってきました。しかし、データの集積で現れたおばあちゃんに「心」はよみがえるのか?喜びや悲しみも生まれるのか?という疑問も生まれます。生成AIに近い将来人間を超えるのではと言われています。その場合、人間である存在意義はなにか?そんなことも、少し考えさせる大人も子どもと一緒に楽しんで考える物語です。

関連企画

ちょこっと俳優たいけん!(ワークショップ)

「ばーちやる」演出家や俳優と声を出したり動いてみます。

- A.未成年コース(小学4年~高校3年生)
日程:2月1日(土)13:00~14:30 参加費:無料
- B.大人コース(18歳以上)
日程:2月8日(土)13:00~14:30 参加費:1,000円

プリズム・チャームプロダクション・シリーズとは?



撮影:堀川高志 ▲2022年度公演「タジタジ大どろぼうとオロオロ魔法つかい」より

子どもたちに生のお芝居そのものの魅力を知ってもらい、鑑賞を通して豊かな心を育ててもらいたいことを目的にプリズムホールが創る演劇公演です。今回も1月中旬から約40日間にわたりプリズムホールでいちから稽古をし、作品を創ります。稽古の間には地域のみなさんとのワークショップ(上記記載)もあります!

八尾市内在住・在学の小学5年生は無料!
この公演は、一般公演に先がけて、八尾市内の小学校5年生による学校公演を実施します。さらに、2月22日(土)・23日(日・祝)の一般公演でも5年生はご招待(鑑賞無料)です!



▲鑑賞に来てくれた子どもたちを出演者が見送ります

祝 人間国宝認定 || 記念トーク&文楽公演 ||

玉男さんの当たり役のひとつ
「仮名手本忠臣蔵」大星由良助

文楽 人形遣い 吉田玉男の世界

2025年3月2日(日)小ホール
チケット情報は裏面

スペシャルインタビュー

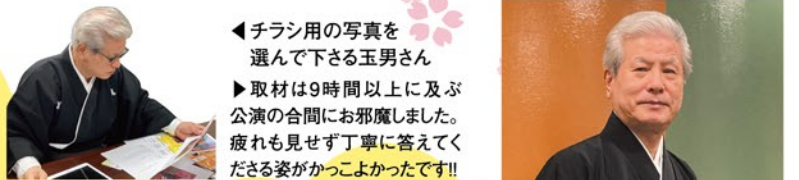
2023年、八尾市出身・在住の文楽人形遣い・吉田玉男さんが人間国宝に認定されました。これを記念し、玉男さんの芸の真髄に触れる記念トークと文楽公演を開催します。男の中の男、文楽作品の中でも骨太でスケールの大きな役を数々担われる玉男さん。その芸や文楽への想いをお聞きしました。



1968年、15歳で入門。20世紀最大の人形遣いと称される初代吉田玉男さんの元で吉田玉女として30年以上修行を積む。2015年に二代目吉田玉男を襲名。日本芸術院賞、紫綬褒章、松尾芸能賞、2023年人間国宝認定他受賞多数。

認定から1年が経ちました。現在のお気持ちは?
人間国宝になったからといって芸が良くなるわけではないので、さらに技術を高められるよう努力したいです。後進の育成にはいっそう力を入れていきたいですね。

文楽の面白さはどんなところですか?
文楽は一人ではできないんです。「太夫」「三味線」「人形遣い」という三業でつくるお芝居で、それぞれ魅力があるのでみてほしいですね。人形は三人で遣います。また、三大名作(※)をはじめ、物語が素晴らしい作品が文楽にはたくさんあります。(※「菅原伝授手習鑑」「義経千本桜」「仮名手本忠臣蔵」)



◀チラシ用の写真を
選んで下さる玉男さん
▶取材は9時間以上に及び
公演の合間にお邪魔しました。
疲れも見せず丁寧に答えてく
ださる姿がかっこよかったです!!

普段はどんなサイクルで舞台に立たれていますか?
大阪の文楽劇場と東京とでは毎月交互に公演があります。初日の2~4日前が稽古期間です。

とても短いんですね。芸はどのように伝えていかれるのですか?
人形遣いは、同じ舞台に立ち、同じ人形を遣う中で学んでいきます。「頭(ず)」という主遣いが出す合図で動くんです。師匠と弟子が一つの人形を一緒に遣う中で日々伝えていく、という感じですね。

「肚(はら)のある役」が、ご自身でも好きだとお聞きしました。演じる際に大切なことは?
役の性根をとらえるのが大切ですね。人形には役ごとに決まっている「首(かしら)」があつて、肚に気持ちを入れる役は、「孔明」という首を使います。年功がいる役です。立役(男役)は芯がしっかりしていないといけません。「この役は玉男さんの役やな」と思ってもらえるように頑張りたいです。

八尾の公演や今後に向けて
プリズムで公演ができることが非常にうれしいです。特に若い人に見てほしい。人形浄瑠璃のことは歴史でも習うので、そういうところから興味をもってもらえたら。文楽は楽しいと思ってもらえるのが一番ですね。

玉男さんの芸にさらに迫る!
関連展示「文楽一筋 -人形と心を重ねて-」
玉男さんの軌跡を舞台写真とインタビューでたどる展示と文楽紹介パネル展
2月5日(水)~2月20日(木) 1階 オープンコーナー

玉男さんによる作品解説「見どころ」
「義経千本桜」は源平の戦いにまつわる物語です。この段は浄御前と狐忠信の踊りの掛け合いが美しい場面です。太夫と三味線が豪華に入る華やかさ、桜が満開の情景、大和路が歌詞に現れるというところで、この作品を選びました。私が遣うのは人間に化けた狐の役、時折見せる狐のしぐさや早変わりにも注目ください。

狐忠信
義経の家臣 佐藤忠信に化けた狐の子。親狐の皮でつくられた鼓を追って鼓を預かる浄御前のお供をする。



浄御前
義経の愛妾。義経を追って吉野山を目指す。

作品紹介
義経千本桜
道行初音旅
桜が満開の吉野山への旅路の途中、狐忠信と浄御前がみせる舞踏劇。文楽三大名作のひとつ、狐忠信を玉男さんが遣います。